

令和5年度 久留米市立久留米商業高等学校教育指針（学校自己評価表）

学校運営計画							
教育目標		生涯にわたる人格形成の基礎を築き、健全な成長と自立を促す					
スクール・ミッション	(1) 本校に期待されている社会的役割 「新しい時代を切り拓く人材の育成」「地域創生を担う有為な人材の育成」 (2) めざすべき学校像 「秩序ある雰囲気の中で、安全で安心して生活できる学校」「目標に向かって生徒と教職員が共に活動し実践する学校」「笑顔があふれ、生徒の成長を通して保護者や地域から信頼される学校」 (3) めざすべき教師像 「自他を尊重し、気持ちをくみ取り、人と人のつながりを大事にする先生」「生徒の可能性（やる気）を伸ばし、生徒の笑顔を引き出す先生」「教育専門職(プロ)として、真摯にかつ謙虚に学び、模範(学ばれる)となる先生」						
スクール・ポリシー	(1) グラデュエーション・ポリシー（めざす生徒像） 「人・物・事を大切にできる心豊かな生徒」「好奇心を持ち、ひたむきに学ぶ生徒」「目標に向かってたくましく取り組む生徒」 (2) カリキュラム・ポリシー（めざす授業像） 「学習の目標と方法が明確で、生徒の主体的な学びがある授業」「思考力、判断力、表現力を育てる授業（問いを立て、最適な解を探す）」「学びあえる学習集団を形成し、達成感が実感できる授業」 (3) アドミッション・ポリシー（求める生徒像） 「マーケティングや簿記等の商業分野を学びたい生徒」「商業分野に加え高度な経営理論と情報技術を学びたい生徒」「商業分野に加え英語・IT・会計を学び大学進学をめざす生徒」「勉強も部活動も頑張りたい生徒」						
昨年度の成果と課題		本年度の重点目標		重点目標の具体的な内容			
【成果】 ・課題を持つ生徒への組織的な対応、生徒支援体制の充実が進んだ。 ・新学習指導要領に対応した教育課程や観点別評価方法を構築することができた。 【課題】 ・SC、SSW、病院との更なる連携・協力体制の構築 ・対人交流の機会が戻りつつある中で、道徳心や人権感覚の更なる育成 ・1人1台端末に向けた ICT の更なる活用法の構築、デジタル環境の整備。		1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	ア 基礎的・基本的な知識および技能を確実に習得させる イ 一人一台端末を活用した授業改善を図る ウ 「指導の個別化」と「学習の個性化」を推進する				
		2. こども基本法の基本理念を基盤とした教育活動の点検と改善	ア 基本理念を理解し、教育実践の基盤とする。 イ 授業・特別活動について、基本理念を基盤とした点検と改善をおこなう。 ウ 部活動について、基本理念を基盤とした点検と改善をおこなう。				
		3. 持続的で魅力ある商業教育の構築	ア 各教員の専門性の深化と広範化を図り、それに立脚した魅力ある授業を展開する イ 地域連携・地域貢献の一環として、小・中学生対象の体験授業を開発し実施する ウ 検定・コンテストを活用し生徒の自己実現を図る				
評価項目	具体的目標	具体的方策			中間評価	年度末	次年度への課題
つなぐ力 (他尊・自尊)	人権感覚の高揚 (安心できる学校づくり)	(1) 毎月の学校生活アンケートを実施し、生徒のおかれている状況を迅速に把握することで、課題を持つ生徒への組織的な対応に取り組み、生徒支援体制の更なる充実を図る。				A	・生徒支援に関しては学校だけでは対応できないケースが増えている。SC、SSW、病院との更なる連携・協力体制の構築 ・対人交流の機会が戻りつつある中で、道徳心や人権感覚の更なる育成 ・校内だけの人権・同和教育ではなく、当事者や人権課題に取り組んでいる方々から、学ぶ機会（研修）を増やす
		(2) 生徒の豊かな情操と道徳心を培い、心の通う対人交流能力を養うため、全ての学校行事において道徳教育、特別支援教育及び体験活動等の充実を図り、他者の個性や価値観を共有できる人権感覚と多様性への理解を持たせる。				B	
		(3) 各学年の年間計画に基づき人権・部落問題学習や教科・科目において人権教育に取り組むとともに、教育活動の全領域において人権感覚と多様性への理解を持たせる				B	
つくる力 (学力の定着)	主体的学びがある授業の実践 (キャリア教育の実践)	(1) 新学習指導要領に対応した教育課程や観点別評価の検証および課題等の改善を行い、生徒の個々の活動等を適切に評価できる評価方法を構築する。				B	・1人1台端末に向けた ICT の更なる活用法の構築、デジタル環境の整備（Wi-Fi環境の構築） ・観点別評価のさらなる検証や研究を通して、個々の活動を適切に評価する ・3年間を見通した探究活動の評価
		(2) 授業研修会を開催し、思考力・判断力・表現力を育てる授業（問いを立て、最適な答えを探す）を実践するために教師自らが学びあうことで、指導力向上を図る。				A	
		(3) ICT 教育を授業のツールとしての利用に留まらず、地域や他校・大学と連携をするツールとして幅広い活用を実践し、課題解決型学習の開発を行う。				A	
協働する学校・家庭・地域 (信頼される学校)	地域から信頼され応援してもらえる学校の構築 (地域貢献できる有為な人材の育成)	(1) 「ふるさと久留米」を愛する地域創生の担い手を育成するために、PTA、民間企業や行政、地域の教育力と連携した教育実践を行い、地域と学校との絆を深める。（PTA面接練習会、商業科課題研究等）				B	・地域コミュニティとの連携や取り組みを推進 ・生徒自ら学校の魅力をPRできるプレゼン能力、企画力、創造力の育成 ・広報活動のデジタル化やSNSの活用の促進 ・商業科と連携した広報活動の工夫・改善
		(2) 多くの方々に久商祭や体験入学等に足を運んでもらい、生徒が活躍する場面を見ていただき本校教育活動に対する理解を深めてもらう。				A	
		(3) 教育内容や実績、特別活動等を中学生や保護者、地域にPRするため、より関心が沸くような学校パンフレットを作成するとともに、中学生向け体験入学を年2回、保護者向け説明会を年2回、地域別説明会を5地区で企画・実施する。				A	

総合評価

A